

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 6年 12月 24日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3491500827		
法人名	三菱電機ライフサービス株式会社		
事業所名	福山ケアハートガーデン グループホームあずみ		
所在地	〒720-0083 広島県福山市久松台三丁目8番23号 (電話) 084-982-5710		
自己評価作成日	令和6年12月3日	評価結果市町受理日	令和7年5月29日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=3491500827-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	一般社団法人広島県シルバーサービス振興会
所在地	広島市南区皆実町一丁目6-29
訪問調査日	令和6年12月18日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

毎月行事を行い、入居者様に季節を感じて頂き、普段と違う雰囲気を楽しんでいただいている。ケアプラン作成時にはセンター方式を活用し、本人様の立場となって考え、より良い生活を送っていただけるように生活援助を行っている。
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

毎日のケアを実践する中で基本理念を各ユニットの目に付く場所に大きく掲示し取り組んでいる。個性を尊重し、要望を実現する為にセンター方式の情報シートを活用し、生活歴や個々の大切にしている物やこだわり、趣味を聴取し、日々の生活の中から新たに知り得た情報を加え職員間で共有し、利用者や家族の思いを介護計画に反映させ、より良い生活が過ごせるよう日々実践取り組んでいる。行事担当を決め、季節の行事を考案、日常と違った雰囲気で楽しんでもらえる行事を計画し、秋祭りは手作りゲームや懐かしい駄菓子店、敬老会はマジックショーや二人羽織りで笑いや拍手で笑顔を引き出す取り組みをしている。又、行事の様子を2か月に1回発行する「あずみ便り」で利用者の表情が写真付きで伝わり家族にも情報共有が出来るよう努めている。職員が申し送り時やカンファレンス以外でも何時でも意見や提案が話せる職場作りに尽力している。
--

自己 評価	外部 評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅰ 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念を従業員が見える場所へ掲示し、カンファレンスで理念を唱和している。	開設当初の理念に対し職員の意見を参考に状況に適した基本理念を作成し各階ユニットの理念としている。良く目につくリビングの壁面に掲示し、カンファレンスの時に唱和を行い意識づけをしている。ケアをする際の基本として、個々の能力に応じた笑顔を引き出す取り組みを実践している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナにより入居者様は町内行事への参加はできていなかったが、地域清掃などの町内活動には従業員が参加している。	町内会に加入し、回覧板や運営推進会議に出席の町内会老人会長から地域情報を得ている。地域清掃活動は毎回職員を変える等して顔が見える交流をしている。地域防災訓練や中学校のチャレンジウィーク、学生のインターシップ、創業祭には近隣高校生のボランティア参加等、以前のような交流の再開を検討している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の再開により、町内の方との交流機会が復帰しつつある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の再開により、町内の方や地域包括支援センターとの交流機会が復帰しつつある。 ご家族様へはコロナ中でも電話等により状況報告を行っていた。	運営推進会議は市保険給付課、事業者指導課、地域包括支援センター、町内会老人会長、家族等の参加で開催している。入居者利用状況、スタッフ状況、行事・活動報告等行い、市担当者からは提案や老人会長からは地域の行事や家族参加者から意見等情報や意見交換の場となり、運営に反映出来るよう取り組んでいる。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる。	2024年5月に運営指導を受審した。その中でも積極的な意見交換が行え、有意義な指導も受けることができた。	福山市介護保険課から運営指導を受審し、事業所の疑問点等を相談、助言や指導を得て運営に活かす取り組みをしている。市主催の研修や手続き等、電話や直接出向き情報を共有している。地域包括支援センター、居宅介護支援事業所等から入居の問い合わせや空き状況等、密な関係の構築に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を定期で開催し、事例検討や研修を実施している。	2ヶ月に1回身体拘束廃止委員会を事例を挙げて開催し、議事録を回覧し全職員に周知している。年2回身体拘束・高齢者虐待防止の研修を行い、内1回は3ブロックを含めた研修で職員は知識を深め、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を開催し、入居者様への声掛けや言葉遣いをスタッフ同士で注意できる関係作りや研修による不適切ケアの撲滅に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている入居者様が不在となり、学ぶ機会を設けることができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時から寄り添う対応をしている。契約時は時間をしっかり取り、疑問質問にすべて答える対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン更新時には要望を伺い、内容へ反映できるようにしている。	利用者には日頃の生活の中から意見を傾聴し、家族には2ヶ月に1回の「あずみ便り」の送付や面会時や電話等で意見を聴取している。転倒予防の歩行訓練や食事の進まない利用者には家族から甘いものが好物との情報を得る等、運営に活かす取り組みをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや申し送り時のほか、普段から意見が言えるようコミュニケーションに努めている。	申し送り時やカンファレンスだけでなく日頃から意見や提案を聞いている。職員からの意見で、フロアー入り口の開閉時「入ります」「出ます」の声掛けをする事で必要時の介助を中断する事のない取り組みを実践している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に一度の面談のほか、随時相談に対応している。 残業の無いように業務の簡素化などを随時検討している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社主催の研修への参加や毎月の研修を実施している。 社外研修の情報展開を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	コロナにより近隣事業所への立ち入りは自粛していたが、連絡等により関係は継続している。 一部のネットワークづくりは継続できている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居面談時の情報と可能な範囲で入手できる基本情報を基にした暫定プランを作成する。 入居後1カ月は特に多く関わりをつくりアセスメントに注力し、本プランへ移行している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前から困っていることなどを傾聴し、入居後は特に細かく連絡を取るようになっている。 センター方式のツール記入に協力いただき、不明点なども即連絡するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学時に状態を伺い、別サービスを含めた提案を実施している。 活用するツールとしては「ハートページ」である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様が出来ることは行っていくようなケアを実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要物品の連絡だけではなく、入居者様の不安を取り除くために連絡することもある。その際には近況報告も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	写真を持参していただいたり、ご家族の希望するなじみの方との面会など、以前の思い出を維持できるよう援助している。	家族に了解の上で知人の来訪や手紙のやり取り、家族に集合写真や昔の写真を持参してもらい、思い出の継続支援に取り組んでいる。近隣家族と一緒に散歩に出かけ、なじみの人との挨拶や新しく訪問理美容の方と知り合いになったり、車で出かける際は自宅周辺を通っての外出支援等、関係の継続支援に努めている。	

自己 評価	外部 評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の相性もあるが、食事の席を考えたり、レクリエーション時には従業員が間に入るなど配慮している。日頃はフロア間交流として入居者様が行き来している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後もご家族から相談を受けることがある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の情報シートを基にご家族様と検討している。 ※情報シートの一部はご家族様に記入していただいている。	利用開始時、センター方式の情報シートを活用し、家族にも協力を得て生活歴を記入している。開始後は日頃の生活の中で発言や知り得た情報を介護記録に記入し、情報を共有している。表出の困難な時は選んでもらいやすいよう声掛けや対応で表情や仕草から把握している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の情報シートを基にご家族様と検討している。 ※情報シートの一部はご家族様に記入していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録に記入した本人様の状態を基にケアプランを作成している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時にはご家族様から要望を含む意見を聞き、従業員間で検討している。	ケアプランは半年毎に見直しをしている。利用者担当職員が実施評価や介護記録から状態の変化や利用者が安心出来る物、職員の気付き等からケアプランの更新シートを作成している。それをもとにカンファレンスにて職員や医療機関の意見や助言、提案を反映したケアプランをケアマネジャーが確認している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に本人様の状態・発言・従業員の気づきを記入し情報共有としている。特別的な共有は日誌へも別途記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ケアプラン更新時にもアセスメントを行い、本人様の要望等を組み込むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の要望に傾聴し、出来るだけ楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に往診医とご家族様で契約いただく。状態変化時は往診医、ご家族様と施設従業員とで話し合いの場を設ける場合もある。	契約時、かかりつけ医の希望を聞き、承諾を得て、事業所の協力医がかかりつけ医となり月2回の訪問診療と訪問看護ステーションの来訪を受けている。他科受診は家族対応で行けない時は職員が協力支援をしている。訪問歯科や月2回歯科衛生士による口腔ケアを行っている。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週2日の看護師勤務時に情報共有を行っている。また、緊急時など相談は随時電話で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室との連絡を密にするようにしている。入院中には支援の方法など共有を図っている。退院に向けてご家族様を交えた情報共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に説明を行うほか、ケアプラン更新時にも話をさせていただいている。	契約時、重度化した場合や終末期のあり方について説明確認をしている。ケアプラン更新時に意向の確認をその都度行っている。看取りの事例もあり、重度化した場合医師による説明を行い、全員が情報を共有し、看取りプランを作成し方針を決め、チームで支援をしている。看取り時は希望があれば宿泊も可能である。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の研修を実施している。看取り時には緊急連絡網の見直しを含めた対応共有を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施している。町内の訓練へも参加している。（コロナ中は中止していた。）	年2回のうち1回は夜間を想定した消防訓練を実施している。通報・避難経路・水消火器の使用訓練を行い、地震時の訓練もマニュアル化している。食器棚や冷蔵庫上部につっかえ棒を設置している。地域の避難訓練時、町内会が配布した黄色いハンカチを避難の際玄関にぶら下げる等、地域ぐるみで防災対策をしている。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様への言葉遣いが威圧的になっていないか、馴れ馴れしすぎていないか、従業員同士が注意しあえる関係を築いている。	接遇や高齢者の対応についての研修をしている。日頃の言葉づかいが馴れ馴れしくならないよう節度を持って行えるよう職員同士がお互いに注意しあえるよう努めている。個人情報等は鍵のかかる収納庫に保管している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	服やおやつなど選択できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケアプランにも反映している部分もあるが、入居者様のペースで生活できるケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着慣れた服を持参いただいているのはもちろんであるが、入浴後の保湿などを利用している方もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備は困難となっているが、片付けを一緒に行うこともある。食後のコーヒーなど希望される方への対応も行っている。	配食業者の献立を温め、利用者が出来る盛り付けや配膳等職員と一緒にしている。ご飯や汁物は厨房で作っている。個々の咀嚼や嚥下を考慮した食事形態で提供している。誕生日にはケーキや行事食として花見弁当、敬老会には特別メニューやおやつに紅白饅頭で祝う等、食を楽しむ支援に取り組んでいる。	

自己評価	外部評価	項 目（ 1階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	食事形態の工夫（きざみ、ペースト食な ど）や水分摂取量の記録などを実施して いる。 水分量が不足しそうな方へは個別に接種 機会を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう， 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	歯ブラシを使用できない方にはスポンジ 等を使用している。定期的に来訪される 歯科衛生士から指導をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし， 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	お1人ずつの排泄パターンを記録し、誘 導時間や夜間の睡眠優先、パッドの種類 などを検討している。	排泄チェック表をもとに排泄パターンを 把握している。排泄時に立位が保てるよ う車いすから椅子に座り変える組み や便座に座った際、足が床にとどくよう 足台を使用している。声掛け誘導を行 い、座位姿勢で排泄を行う事でトイレで の排泄が増える等自立に向けた支援をし ている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。	高齢者の疾患研修を行っている。 日常の中で体操、レクリエーションによる 運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴時間は決めているが、要望があれば 入浴対応ができるようにしている。	入浴は3日に1回を基本としているが、希 望があれば何時でも入浴出来るよう柔軟 に対応している。入浴拒否の方にはその 日の気分を見ながら声掛け等工夫をして いる。香りのする入浴剤や入浴時リラ ックス出来る声掛け等行っている。入浴後 の保湿剤塗布やヒートショックに気配り をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目 (1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご本人様の状況を介護記録へ落 とし、従業員間の情報共有をし ている。夜間の睡眠を優先でき るようにパッド交換や誘導声掛 け頻度を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬を持参される薬剤師から注 意点等を聞き取り、申し送り にて情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。	入居時ご家族に協力していただ く情報を基に、趣味や得意なこ とを継続していただけるよう支 援している。 例：ハーモニカ演奏、散歩など		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	希望を聞き取りケアプランへ 反映している。ご家族に協力 していただき近所を散歩され る方もおられる。	家族の協力での散歩やバケツ を利用して田植えから鳥よけ のネットを設置する等昔を懐 かしむ取り組みをしている。 外出支援として小人数に分 かれて花見に出かけ、事業所 に帰ってから花見弁当を食べ る等、四季を感じる支援を実 践している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこ との大切さを理解しており、一 人ひとりの希望や力に応じて 、お金を所持したり使えるよ うに支援している。	財布を持たないと不安にな れる方は、預かり管理しており 、いつでも確認できるように している。購入要求には立替 にて対応している。		

自己評価	外部評価	項 目 (1階ユニット)	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の()内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様との面会機会の設定、電話要望へ対応している。 手紙・葉書も要望対応が可能である。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ内は明るくなりすぎないように配慮している。 ホール内は昼白色で明るい環境としている。	季節を感じる飾り付けや死角にならないよう机や椅子の配置は厨房から利用者が見えるように配置している。リラックス出来るよう大きなソファを設置し、空調管理や掃除は時間を決めて行い、換気、加湿器を設置し、感染予防対策に努めている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中でも居室で過ごしたい方、ホールで過ごされる方とご本人の希望に沿った動きが取れる状況にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に慣れた家具等の持ち込みをお願いしている。趣味の道具や家電も可能な範囲で許容している。	居室はベッド、エアコン、クローゼット等の設置で、ベッドは利用者の導線の妨げにならないよう設置している。慣れ親しんだ物、大切にしている物、テレビ、ラジオ、仏壇や写真、編み物、ハーモニカ等を持参し、居心地よく過ごせるよう工夫をしている。衣替は季節毎に入れ替えさせてもらうよう家族に伝えている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや風呂場が分かるよう目印や表示をして、自力で行けるような取組みをしている。		

V アウトカム項目（1階ユニット）← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

自己評価	外部評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	基本理念を従業員が見える場所へ掲示し、カンファレンスで理念を唱和している。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	コロナにより入居者様は町内行事への参加はできていなかったが、地域清掃などの町内活動には従業員が参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議の再開により、町内の方との交流機会が復帰しつつある。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	運営推進会議の再開により、町内の方や包括支援センターとの交流機会が復帰しつつある。 ご家族様へはコロナ中でも電話等により状況報告を行っていた。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	2024年5月に運営指導を受審した。 その中でも積極的な意見交換が行え、有意義な指導も受けることができた。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束廃止委員会を定期で開催し、事例検討や研修を実施している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会を開催し、入居者様への声掛けや言葉遣いをスタッフ同士で注意できる関係作りや研修による不適切ケアの撲滅に取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用されている入居者様が不在となり、学ぶ機会を設けることができていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	見学時から寄り添う対応をしている。契約時は時間をしっかり取り、疑問質問にすべて答える対応をしている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ケアプラン更新時には要望を伺い、内容へ反映できるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	カンファレンスや申し送り時のほか、普段から意見が言えるようコミュニケーションに努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に一度の面談のほか、随時相談に対応している。 残業の無いように業務の簡素化などを随時検討している。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	本社主催の研修への参加や毎月の研修を実施している。 社外研修の情報展開を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	コロナにより近隣事業所への立ち入りは自粛していたが、連絡等により関係は継続している。 一部のネットワークづくりは継続できている。		
Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	入居面談時の情報と可能な範囲で入手できる基本情報を基にした暫定プランを作成する。 入居後1カ月は特に多く関わりをつくりアセスメントに注力し、本プランへ移行している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前から困っていることなどを傾聴し、入居後は特に細かく連絡を取るようになっている。 センター方式のツール記入に協力いただき、不明点なども即連絡するように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	見学時に状態を伺い、別サービスを含めた提案を実施している。 活用するツールとしては「ハートページ」である。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様が出来ることは行っていくようなケアを実践している。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要物品の連絡だけではなく、入居者様の不安を取り除くために連絡することもある。その際には近況報告も行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	写真を持参していただいたり、ご家族の希望するなじみの方との面会など、以前の思い出を維持できるよう援助している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	入居者様同士の相性もあるが、食事の席を考えたり、レクリエーション時には従業員が間に入るなど配慮している。日頃はフロア間交流として入居者様が行き来している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退居後もご家族から相談を受けることがある。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	センター方式の情報シートを基にご家族様と検討している。 ※情報シートの一部はご家族様に記入していただいている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	センター方式の情報シートを基にご家族様と検討している。 ※情報シートの一部はご家族様に記入していただいている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	介護記録に記入した本人様の状態を基にケアプランを作成している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ケアプラン作成時にはご家族様から要望を含む意見を聞き、従業員間で検討している。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	介護記録に本人様の状態・発言・従業員の気づきを記入し情報共有としている。特別的な共有は日誌へも別途記入している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれ出るニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	ケアプラン更新時にもアセスメントを行い、本人様の要望等を組み込むようにしている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	入居者様の要望に傾聴し、出来るだけ楽しんで頂けるよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	入居時に往診医とご家族様で契約いただく。状態変化時は往診医、ご家族様と施設従業員とで話し合いの場を設ける場合もある。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	週2日の看護師勤務時に情報共有を行っている。また、緊急時など相談は随時電話で連携を図っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	地域連携室との連絡を密にするようにしている。入院中には支援の方法など共有を図っている。退院に向けてご家族様を交えた情報共有を行っている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居契約時に説明を行うほか、ケアプラン更新時にも話をさせていただいている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時の研修を実施している。看取り時には緊急連絡網の見直しを含めた対応共有を行っている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回の避難訓練を実施している。町内の訓練へも参加している。（コロナ中は中止していた。）		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入居者様への言葉遣いが威圧的になっていないか、馴れ馴れしすぎていないか、従業員同士が注意しあえる関係を築いている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	服やおやつなど選択できるような声掛けをしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	ケアプランにも反映している部分もあるが、入居者様のペースで生活できるケアに努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	着慣れた服を持参いただいているのはもちろんであるが、入浴後の保湿などを利用している方もおられる。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事の準備は困難となっているが、片付けを一緒に行うこともある。食後のコーヒーなど希望される方への対応も行っている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス，水分量が一 日を通じて確保できるよう，一人ひと りの状態や力，習慣に応じた支援をし ている。	食事形態の工夫（きざみ、ペースト食な ど）や水分摂取量の記録などを実施して いる。 水分量が不足しそうな方へは個別に接種 機会を設けている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう， 毎食後，一人ひとりの口腔状態や本人 の力に応じた口腔ケアをしている。	歯ブラシを使用できない方にはスポンジ 等を使用している。定期的に来訪される 歯科衛生士から指導をいただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし， 一人ひとりの力や排泄のパターン，習 慣を活かして，トイレでの排泄や排泄 の自立に向けた支援を行っている。	お1人ずつの排泄パターンを記録し、誘 導時間や夜間の睡眠優先、パッドの種類 などを検討している。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し，飲 食物の工夫や運動への働きかけ等， 個々に応じた予防に取り組んでいる。	高齢者の疾患研修を行っている。 日常の中で体操、レクリエーションによる 運動を取り入れている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わ せて入浴を楽しめるように，職員の都 合で曜日や時間帯を決めてしまわず に，個々に応じた入浴の支援をしてい る。	入浴時間は決めているが、要望があれば 入浴対応ができるようにしている。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々 の状況に応じて、休息したり、安 心して気持ちよく眠れるよう支 援している。	ご本人様の状況を介護記録へ落 とし、従業員間の情報共有をし ている。夜間の睡眠を優先でき るようにパッド交換や誘導声掛 け頻度を検討している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の 目的や副作用、用法や用量につ いて理解しており、服薬の支援 と症状の変化の確認に努めてい る。	薬を持参される薬剤師から注 意点等を聞き取り、申し送り にて情報共有をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を 過ごせるように、一人ひとりの 生活歴や力を活かした役割、嗜 好品、楽しみごと、気分転換等 の支援をしている。	入居時ご家族に協力していただ く情報を基に、趣味や得意なこ とを継続していただけるよう支 援している。 例：ハーモニカ演奏、散歩など		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に そって、戸外に出かけられる よう支援に努めている。また、 普段は行けないような場所でも 、本人の希望を把握し、家族 や地域の人々と協力しながら 出かけられるように支援してい る。	希望を聞き取りケアプランへ 反映している。ご家族に協力 していただき近所を散歩される 方もおられる。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つこと の大切さを理解しており、一人 ひとりの希望や力に応じて、 お金を所持したり使えるよう に支援している。	財布を持たないと不安になら れる方は、預かり管理しており 、いつでも確認できるように している。購入要求には立替 にて対応している。		

自己 評価	外部 評価	項 目（ 2階ユニット ）	自己評価	外部評価	
		上記項目欄の（ ）内へユニット名を記入願います	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご家族様との面会機会の設定、電話要望へ対応している。 手紙・葉書も要望対応が可能である。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	トイレ内は明るくなりすぎないように配慮している。 ホール内は昼白色で明るい環境としている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	日中でも居室で過ごしたい方、ホールで過ごされる方とご本人の希望に沿った動きが取れる状況にしている。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居時に慣れた家具等の持ち込みをお願いしている。趣味の道具や家電も可能な範囲で許容している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	トイレや風呂場が分かるよう目印や表示をして、自力で行けるような取組みをしている。		

V アウトカム項目（ 2階ユニット ）← 左記（ ）内へユニット名を記入願います			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 福山ケアハートガーデン グループホームあずみ

作成日 令和7年2月20日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に要する期間
1	38	入居者様ごとに生活ペースが違うので、ニーズに合わせた対応が必要。	生活ペースを整えつつ、ケアに組み込むこと。	日々の生活リズムの定着。	半年
2	19	コロナにより疎遠となってしまった関係を回復させる。	面会機会の再開。 ※時間は制限あり。	ご家族と施設との関係を強化する。	半年
3	12	就業環境の整備の最たる従業員の確保。	ゆとりのある環境を構築する。	採用活動の強化。 効率化・簡素化による定着の推進。	1年
4	13	ボトムアップが図れていない。	各種社内外研修の実施と推進。	社外研修の情報展開と受講の促進。	1年
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。